

道明寺

當世佛伽曾我

五之卷目錄

第一 指髪起結ゆびかみを女席にょせき乃仮耘田りかぐらでん

付、あへ風流ふうりゅうか大后おほご。産妻うぶつま付つき八角はつかんをを。  
丸まる巾きん引ひくあひあひと女席にょせきれれづづととあ。

男おとこななくく奴やつ麻あしりり乃の回まわ士し付つき

第二 傾かたむ城しろよよふふれてて至いた縁えん法はふ家か察さつ氣き

付、おほ長ながへへ正ただ真ま乃のむむととああこ  
たたままけけのの名な代しろわわげげややどどのの力ちからええままい  
至いた念ねんななぐぐるる念ねんよよいいくくとと道みち奴やつ賞あづかりり



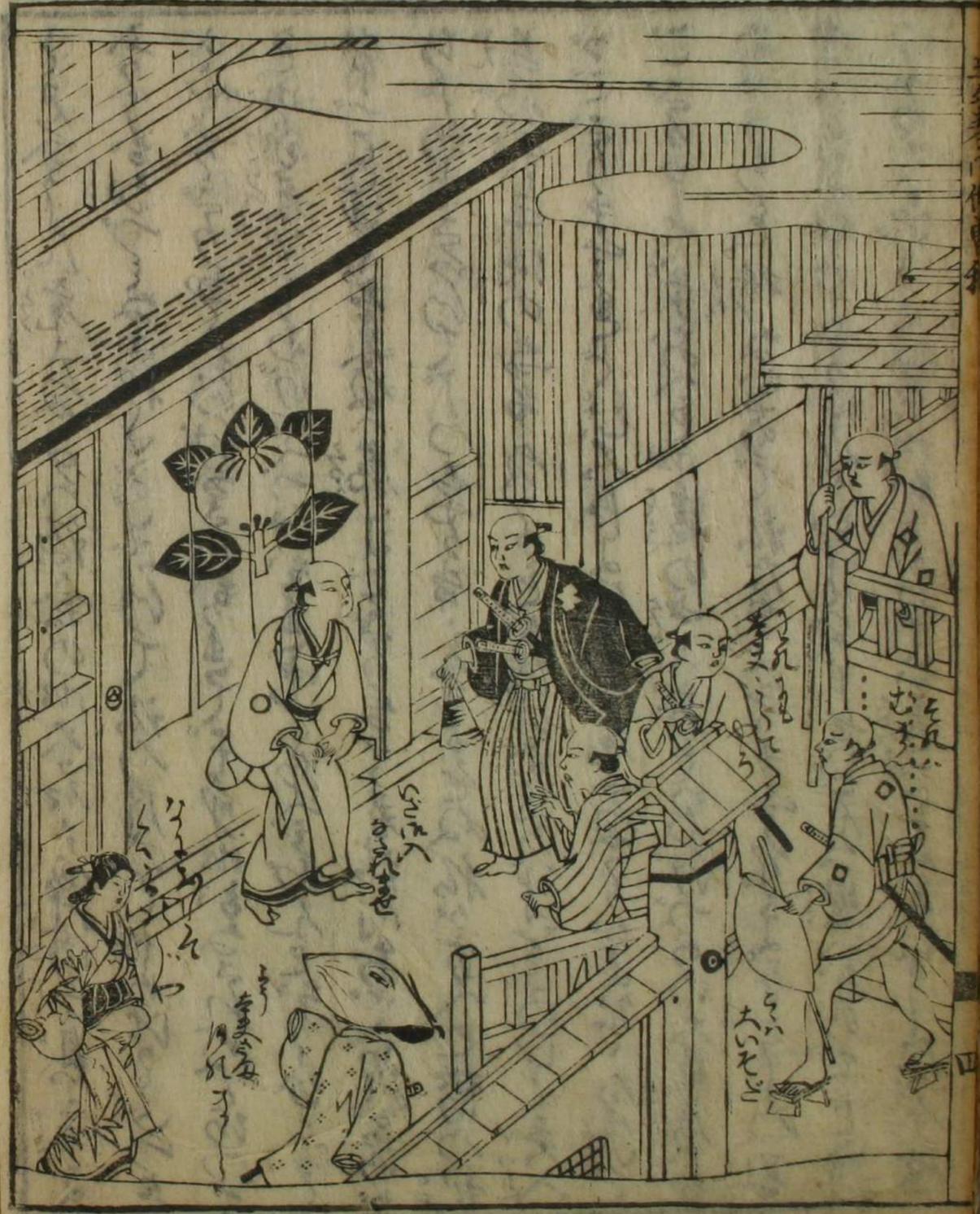
門 遠 13  
號 669  
卷 5

五之卷目錄



て勢守のつらさをのりあわけをいぢらうとすむあて。と云ふ  
 もやうきつらさをいぢらうとすむあて。と云ふまづ、  
 ぐ海まゝとていふ事と。高なる指あつては、もねよめて。ま  
 ぬりて、ぬよとあつて。よままのつらさをいぢらうとすむあて。  
 ぶんれ、いせせ八日。いせ、あつて。母、うゑ、あつて。あつて。あつて。  
 あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 がある。もて、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 たのじ。ねと、いせ、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 ち、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 わつて、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 もやう、いせ、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 あつて、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。

と云ふ事。た。虎、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 ぶつ、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 と、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 と。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 事、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 ら、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 だ、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 ぐ、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 ごと、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 あ、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 ぬ、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。  
 ゆ、あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。あつて。











といふ女中。先きてたのらん中。をわろく純んかろく。P  
 つまじ。敵乃娘。うらふらひてたよ。こまじれよまねごと。何と  
 りと。あぞ。第し。あつまよ。様よ。こゝろ。虎。初て  
 ねとつづ。んか。こゝろ。人の娘。いふ。で。と。か。事。と。りら。  
 大軍の男。いふ。と。将。よ。う。よ。と。ま。う。た。ま。い。か。ま。で。い。ご。ざ。ろ  
 ま。内。院。の。親。子。ご。ん。づ。で。表。向。の。あ。ね。だ。で。人。の。娘。と。い。ひ  
 一。紙。と。つ。け。た。い。ひ。け。し。て。こ。ろ。ぬ。と。う。り。討。よ。と。り。智。恵。う  
 ぞ。う。て。と。も。せ。し。よ。い。ふ。巧。づ。こ。ざ。ろ。と。と。女。お。ろ。と。ん。た。て。今  
 よ。と。く。ぬ。男。と。だ。ぶ。よ。と。う。ら。や。か。あ。け。と。こ。ま。と。か。く。そ。ら。い。ま  
 が。後。が。ら。ふ。か。ら。ぬ。の。敵。の。結。ゆ。後。と。う。敵。の。白。菊。の。今。や。と  
 こ。ざ。ろ。た。ら。な。い。れ。ま。い。の。つ。ね。の。い。ま。い。か。て。か。た。く。た。き  
 よ。ら。づ。い。べ。と。い。ひ。り。と。身。と。り。後。と。ろ。ま。い。づ。い。く。と。け。つ。の





















かくして意のつめたきい貴女もよみ候うたむは侍を頼としてか  
 ぐせよ若でかづえんとしちやうが舞西よひいろの酒をへ美ん  
 ゐいろ又男にむしあつた方とまらうとせうけたむる女  
 ねかよといひ。まらけかきしむとていふ事しかり。和  
 美の身とあびんがり。まらつてん中よめ。は女と目の中  
 ねがよとつるが。もは尾よりさきよめ。歌は終る  
 菊とつるかゝらとあつて。ま方と何とぞまどくは那のから  
 やうよりあつては舞。今お後の室中の中とまらうとや。美  
 社かとねんごうがてまらうとね。社終る一層のあびを  
 しくや。ねんごう大歌とや。社一社終る一層のあびを  
 へくつるの心業と。まのこゝろあつて。娘と美に  
 らく尾よあつて肉味と。おらひ地中の大はわけづらうと

さきをよめてあつた巧とつるあつてつるあつてつるあつて  
 ありつる。とちから虎の歌のうら人は廓よとつてつるあつて  
 ありつる。せらへつるつる沙汰ありつる。大らとの坊とあひ  
 か。今日とつてつるつる。社あつて入あつてつるつる。つる  
 とあつてつるつる。つるつる。つるつる。つるつる。つるつる。  
 と。美新あつてつるつる。つるつる。つるつる。つるつる。

中四

婿入の娘のつら下紐だけぬえり

付タリ 一房の藤子紙をりれつる女同志

あつてつるつる。つるつる。つるつる。つるつる。つるつる。  
 よ。女房のあつてつるつる。つるつる。つるつる。つるつる。  
 代をあつてつる。つるつる。つるつる。つるつる。つるつる。  
 たりとあつてつる。つるつる。つるつる。つるつる。つるつる。





りやゆぐとひさむをすむぐよまはつとく引あふて羽織の行神  
 ひさらぶらて。虎の巻へ虎をつつてさうたさうと娘はしらるな  
 一まおにけぬびせといつ神のつくり事うとまきあつたまぶるれ  
 ぬる者あひびてあり。この何もぞ一袋の中おすまされよ。酒  
 宴とてうけあひ入中若刀紙入の教とるべさるよ。ばるよ  
 くれてわらわるべ。そまはつて西とるよ。大塚よひて虎巻の  
 ま中へひらこよつてまをれば。虎といついと怪びあさかたりて  
 や。うやうす皆な卒忽づり作られる。あさかたう夜虎の極の  
 息女白菊はまへとやめてはが。田舎路よ出方とくられ。うら  
 とははあげてあまびあつるよ。うらと極あつるよ。あつる  
 義女と名の作よ。十あなとじかあお徳人と。まはつた難を  
 作られた時やうけあひつとまはつとまはつとまはつとまはつと



五巻 一の巻

つ。さういふ一が中事いふも事あるものなり。然らば、  
ず。さういふ事いふは、  
わあとの由は、  
とらまえて、  
神よすべし、  
ア、  
ト、  
おき、  
て、  
虎乃、  
後、  
安、

とて。幼少、  
大、  
後、  
右、  
相、  
と、  
く、  
ま、  
つ、  
よ、  
乃、  
ふ、



